

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月1日
【四半期会計期間】	第48期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社 エノモト
【英訳名】	ENOMOTO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 榎本 正昭
【本店の所在の場所】	山梨県上野原市上野原8154番地19
【電話番号】	0554(62)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 山崎 宏行
【最寄りの連絡場所】	山梨県上野原市上野原8154番地19
【電話番号】	0554(62)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 山崎 宏行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期連結 累計期間	第48期 第2四半期連結 累計期間	第47期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(千円)	8,737,765	8,741,052	16,405,202
経常利益又は経常損失() (千円)	76,337	97,917	574,668
四半期純利益又は四半期(当期)純損失() (千円)	142,550	28,096	1,300,039
四半期包括利益又は包括利益(千円)	86,410	666,227	853,342
純資産額(千円)	9,986,811	9,885,633	9,219,421
総資産額(千円)	18,939,815	19,037,845	18,496,509
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額()(円)	9.29	1.83	84.81
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	52.7	51.9	49.8
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	606,445	606,596	36,862
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	829,158	24,269	1,606,843
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	189,493	57,307	1,438,779
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	1,314,136	1,916,973	1,259,564

回次	第47期 第2四半期連結 会計期間	第48期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	2.23	3.39

(注) 1. 売上高は、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第48期第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第47期第2四半期連結累計期間及び第47期は、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融緩和への期待感から、円安・株高を背景に企業収益が改善するなど景気回復の兆しが見受けられました。一方で世界経済は、米国経済の緩やかな回復傾向が継続しているものの、欧州での景気低迷が長期化し、中国・インド等の新興諸国における経済成長が低下する等、世界経済は全体的に停滞した状況が続く、先行きも楽観視できない状況であります。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、民生用のパソコン、テレビ、デジタルカメラ等は依然として厳しい状況が続いているものの、産業機器や自動車向けデバイス部品需要の回復が見られてきております。

このような経営環境下において、当社グループといたしましては、製造時の歩留まり率向上を主眼とした品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行う等、全社一丸となって業績の回復に取り組んで参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は87億4千1百万円（前年同四半期比0.0%増）となりました。また、営業利益は4千1百万円（前年同四半期は営業損失2千8百万円）、経常利益は9千7百万円（前年同四半期は経常損失7千6百万円）、四半期純利益は2千8百万円（前年同四半期は四半期純損失1億4千2百万円）となりました。

製品群別の業績は次のとおりであります。

IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。市場鈍化の影響から、総じて民生用機器向けの電子部品の需要が伸び悩んでおりますが、各自動車メーカーが増産傾向にあることやカーエレクトロニクス化の進展を背景に車載向けデバイス用部品等の需要が拡大しております。その結果、当製品群の売上高は29億2千3百万円（前年同四半期比11.7%増）となりました。

オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。台湾・中国メーカーの台頭による国際市場での競争激化を背景にLEDの供給過剰状態が続いていることから、前期後半より国内の主要ユーザーを中心に在庫調整の動きが続いております。その結果、当製品群の売上高は19億3千2百万円（同6.2%減）となりました。

コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話・スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。スマートフォンやタブレット型端末等のアイテムを中心に急拡大して参りましたが、ハイエンド市場の成熟により過熱した状況が解消されつつあることから主要ユーザーを中心に在庫調整の動きが続いております。その結果、当製品群の売上高は34億7千2百万円（同4.1%減）となりました。

その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は4億1千3百万円（同6.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前第2四半期連結会計期間末に比べ6億2百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には19億1千6百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は6億6百万円（前年同四半期は6億6百万円の取得）となりました。これは主にたな卸資産の減少2億1千4百万円及び減価償却費5億4千万円、仕入債務の増加2億4千9百万円による資金の増加、役員退職慰労引当金の減少4億9千8百万円による資金の減少であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は2千4百万円（前年同四半期は8億2千9百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出3億8千6百万円及び投資その他の資産の減少4億7百万円による資金の増加であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は5千7百万円（前年同四半期は1億8千9百万円の取得）となりました。これは主に短期借入金3億3千7百万円の増加及び長期借入金3億8百万円の返済によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1千8百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、短期的には政府が打ち出した金融緩和政策による円安効果の影響により輸出産業を中心に堅調に回復していくものと期待しております。しかしながら、為替の変動による原材料価格の変動や市場競争の激化による販売価格の下落、中国経済の減速による需要の減少懸念等が存在しております。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえ、中長期的には新興国の需要増加を背景に市場は拡大基調で推移するものと予想し、事業環境及びリスクを考慮しつつ今後も積極的な事業展開を推進して参ります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループが対処すべき課題として、中期的な経営方針として掲げた項目の実現のために、特に年度ごとに経営重点課題を設定して全社的な取り組みを推進しております。中期経営方針の3年目にあたる2013年度の経営重点課題としては、前年度に引き続き事業活動の中心となる「経営判断」「顧客対応」「モノ造り」の全ての過程においてスピードアップを図る事を掲げ、当社グループの総力を結集して、業績の回復・拡大に専念して参ります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,600,000
計	37,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,348,407	同 左	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	15,348,407	同 左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	15,348,407	-	4,149,472	-	4,459,862

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社エノモト興産	山梨県上野原市上野原747	2,000	13.03
有限会社エムエヌ企画	山梨県上野原市上野原1835-1	1,098	7.15
榎本 保雄	山梨県上野原市	690	4.49
エノモト従業員持株会	山梨県上野原市上野原8154-19	523	3.41
株式会社山梨中央銀行	山梨県甲府市丸の内1-20-8	453	2.95
榎本 信雄	山梨県上野原市	365	2.38
櫻井 宣男	神奈川県相模原市緑区	234	1.52
榎本 貴信	山梨県上野原市	230	1.49
櫻井 妙子	神奈川県相模原市緑区	220	1.43
榎本 寿子	山梨県上野原市	220	1.43
計	-	6,037	39.33

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 21,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,268,000	15,268	-
単元未満株式	普通株式 59,407	-	-
発行済株式総数	15,348,407	-	-
総株主の議決権	-	15,268	-

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社エノモト	山梨県上野原市上野原8154番地19	21,000	-	21,000	0.14
計	-	21,000	-	21,000	0.14

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,259,564	1,916,973
受取手形及び売掛金	3,248,996	3,456,768
商品及び製品	476,331	527,726
仕掛品	905,312	801,318
原材料及び貯蔵品	798,984	766,482
繰延税金資産	104,658	90,798
未収入金	90,499	93,338
その他	43,667	59,627
貸倒引当金	1,625	1,640
流動資産合計	6,926,390	7,711,393
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,371,597	9,609,979
減価償却累計額及び減損損失累計額	6,309,382	6,487,129
建物及び構築物(純額)	3,062,214	3,122,849
機械装置及び運搬具	12,291,954	12,916,344
減価償却累計額及び減損損失累計額	8,993,855	9,557,676
機械装置及び運搬具(純額)	3,298,098	3,358,668
工具、器具及び備品	4,156,967	3,866,030
減価償却累計額及び減損損失累計額	3,821,571	3,546,841
工具、器具及び備品(純額)	335,395	319,188
土地	3,454,451	3,437,829
建設仮勘定	9,909	56,115
有形固定資産合計	10,160,070	10,294,651
無形固定資産		
投資その他の資産	132,644	138,041
投資有価証券	499,815	521,750
前払年金費用	156,852	149,167
繰延税金資産	10,540	12,143
その他	642,895	243,397
貸倒引当金	32,700	32,700
投資その他の資産合計	1,277,404	893,759
固定資産合計	11,570,118	11,326,451
資産合計	18,496,509	19,037,845

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,439,845	3,857,894
短期借入金	2,104,940	2,351,944
未払法人税等	49,509	37,718
未払消費税等	26,469	25,815
賞与引当金	173,000	164,000
その他	770,433	759,416
流動負債合計	6,564,197	7,196,789
固定負債		
社債	120,000	60,000
長期借入金	1,093,000	883,120
繰延税金負債	147,968	158,898
退職給付引当金	70,322	87,235
役員退職慰労引当金	720,900	222,700
リース債務	87,375	70,144
再評価に係る繰延税金負債	473,324	473,324
固定負債合計	2,712,890	1,955,422
負債合計	9,277,087	9,152,212
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,149,472	4,149,472
資本剰余金	4,459,862	4,459,862
利益剰余金	1,688,660	1,716,757
自己株式	8,876	8,892
株主資本合計	10,289,119	10,317,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,641	43,844
土地再評価差額金	277,431	277,431
為替換算調整勘定	823,906	197,979
その他の包括利益累計額合計	1,069,697	431,566
純資産合計	9,219,421	9,885,633
負債純資産合計	18,496,509	19,037,845

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	8,737,765	8,741,052
売上原価	7,869,013	7,847,126
売上総利益	868,751	893,925
販売費及び一般管理費	896,964	852,904
営業利益又は営業損失()	28,212	41,021
営業外収益		
受取利息	398	4,321
受取配当金	2,267	2,240
受取賃貸料	34,720	35,191
受取保険金	747	66,086
助成金収入	-	17,140
その他	3,608	5,100
営業外収益合計	41,742	130,080
営業外費用		
支払利息	15,463	24,878
債権売却損	11,448	6,330
租税公課	15,880	16,423
為替差損	32,921	12,566
その他	14,153	12,985
営業外費用合計	89,867	73,184
経常利益又は経常損失()	76,337	97,917
特別利益		
固定資産売却益	6,891	2,065
特別利益合計	6,891	2,065
特別損失		
固定資産売却損	10,505	9,001
固定資産除却損	29,608	8,892
投資有価証券評価損	14,056	2,434
特別損失合計	54,170	20,328
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	123,616	79,654
法人税、住民税及び事業税	29,670	34,311
法人税等調整額	10,737	17,245
法人税等合計	18,933	51,557
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	142,550	28,096
四半期純利益又は四半期純損失()	142,550	28,096

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	142,550	28,096
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,961	12,203
為替換算調整勘定	69,101	625,927
その他の包括利益合計	56,139	638,130
四半期包括利益	86,410	666,227
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	86,410	666,227
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	123,616	79,654
減価償却費	538,980	540,868
退職給付引当金の増減額(は減少)	3,557	6,980
前払年金費用の増減額(は増加)	17,398	7,684
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12,549	498,200
受取利息及び受取配当金	2,666	6,561
支払利息	15,463	24,878
有形固定資産除却損	29,608	8,892
売上債権の増減額(は増加)	158,908	4,348
たな卸資産の増減額(は増加)	10,702	214,828
仕入債務の増減額(は減少)	362,547	249,922
その他	36,850	52,705
小計	647,360	677,307
利息及び配当金の受取額	2,666	6,561
利息の支払額	15,395	27,819
法人税等の支払額	28,185	49,452
営業活動によるキャッシュ・フロー	606,445	606,596
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	703,052	386,710
有形固定資産の売却による収入	19,462	17,760
無形固定資産の取得による支出	48,939	6,598
投資有価証券の取得による支出	4,646	4,686
投資その他の資産の増減額(は増加)	91,247	407,279
その他	736	2,775
投資活動によるキャッシュ・フロー	829,158	24,269
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	500,000	337,815
長期借入金の返済による支出	211,900	308,660
ファイナンス・リース債務の返済による支出	7,929	26,446
社債の償還による支出	60,000	60,000
自己株式の取得による支出	18	16
配当金の支払額	30,658	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	189,493	57,307
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,960	83,850
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	35,179	657,409
現金及び現金同等物の期首残高	1,349,316	1,259,564
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,314,136	1,916,973

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	202,639千円	220,048千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給与手当	304,292千円	287,534千円
賞与引当金繰入額	40,265	21,937
退職給付費用	16,826	15,170
役員退職慰労引当金繰入額	12,549	17,800

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	1,314,136千円	1,916,973千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	1,314,136	1,916,973

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	30,658	利益剰余金	2.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

当社グループの事業はプレス加工品関連事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	9円29銭	1円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	142,550	28,096
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	142,550	28,096
普通株式の期中平均株式数(株)	15,329,296	15,326,671

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月1日

株式会社エノモト
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 一生 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 栗野 正成 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エノモトの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エノモト及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。